

# 定期作況報告

平成19年8月  
(8月20日現在)

北海道立北見農業試験場

# 1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年並、最低気温は平年より低く、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年よりやや多かった（平年比129%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比136%）。

8月上旬：最高気温、最低気温、平均気温ともに平年よりやや高かった。降水量は平年よりやや多かった（平年比129%）。日照時間は平年より少なかった（平年比57%）。

8月中旬：最高気温、最低気温は平年より高く、平均気温は平年より極めて高かった。降水量は平年より少なく（平年比24%）。日照時間は平年並であった（平年比110%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は平年と比較して、気温は平年よりやや高く、降水量、日照時間は平年並であった。

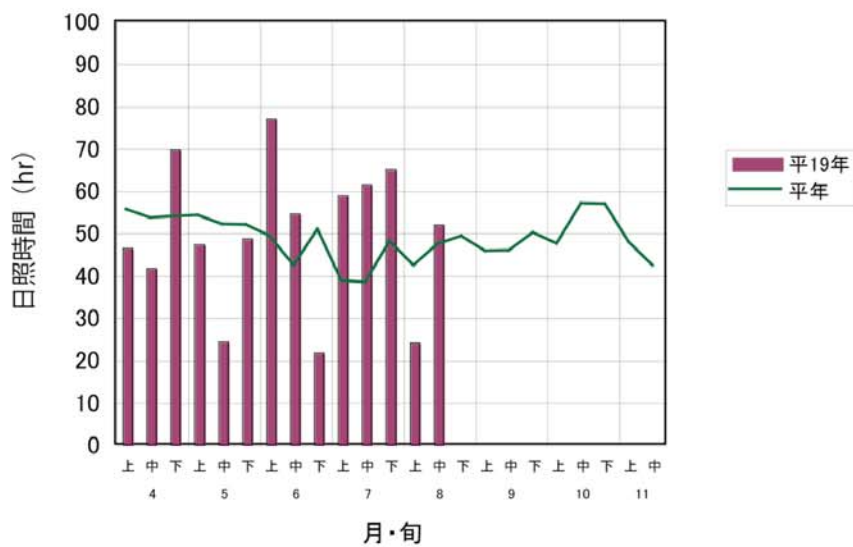
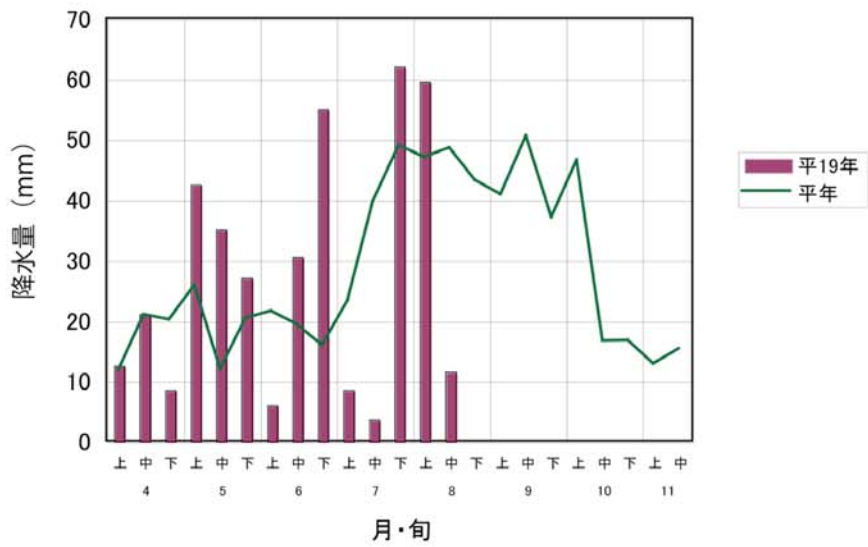
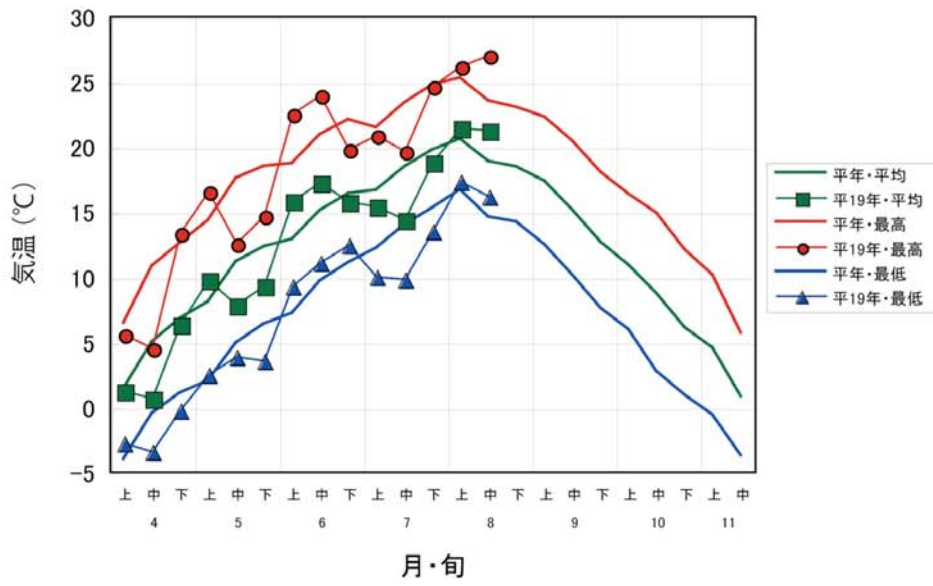
注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

気象表

項目 月旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	18.8	19.7	△0.9	24.7	24.8	△0.1	13.5	15.3	△1.8
8月上旬	21.5	20.6	0.9	26.2	25.3	0.9	17.3	16.7	0.6
8月中旬	21.3	18.9	2.4	27.0	23.5	3.5	16.2	14.6	1.6
平均	20.5	19.5	1.0	25.9	24.2	1.7	15.6	15.4	0.2

項目 月旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	62.0	48.8	13.2	65.0	47.7	17.3
8月上旬	59.5	46.9	12.6	24.0	41.9	△17.9
8月中旬	11.5	48.4	△36.9	51.9	47.1	4.8
合計	133.0	144.1	△11.1	140.9	136.7	4.2

- 注） 1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。  
2）平年値は前10か年間の平均である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦 作況：不良

事由:7月下旬の気温は平年よりやや低く、度重なる局地的な豪雨の影響を受け、登熟が緩慢となり、成熟期は平年より2～5日遅れた。「タクネコムギ」の一部、および「ホロシリコムギ」に「多～甚」の倒伏が発生した。穂数は平年並か平年よりやや少なく、穂長は平年並か平年よりやや長かった。千粒重は平年並か平年を下回った。リットル重は熟期が遅い品種ほど平年を下回った。子実重は平年より低く、早生品種ほど低収となった。この低収は、穂数および千粒重が平年を下回ったことが影響したものと考えられる。外観品質は平年並かやや劣っていた。

以上のことから目下の作況は「不良」である

調査項目	タクネコムギ			ホクシン			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (平成19年月.日)	7.25	7.21	4	7.27	7.25	2	8.1	7.27	5
子実重(kg/10a)	428	533	△ 105	548	621	△ 73	548	582	△ 34
同上平年比(%)	80	100	△ 20	88	100	△ 12	94	100	△ 6
リットル重(g)	809	808	1	799	816	△ 17	784	807	△ 23
千粒重(g)	38.0	38.0	0.0	36.0	39.9	△ 3.9	41.5	43.5	△ 2.0

注) 平年値は前7カ年中、「タクネコムギ」「ホクシン」は平成14年(最凶)、15年(最豊)を除く5カ年、「ホロシリコムギ」は平成15年(最豊)、18年(最凶)を除く5カ年の平均値。

「ホクシン」の播種量は255粒/m<sup>2</sup>、その他の品種の播種量は340粒/m<sup>2</sup>。

訂正：7月20日付け作況報告の際、「ホクシン」の穂数(成熟期)の数値に誤りがありました。お詫びして訂正致します

本年：(誤) 6 5 3 本/m<sup>2</sup> → (正) 6 4 4 本/m<sup>2</sup>

比較：(誤) △ 7 7 本/m<sup>2</sup> → (正) △ 8 5 本/m<sup>2</sup>

2) 春まき小麦 作 況：やや良

事 由：7月下旬の局地的な豪雨により、「中」～「多」程度の倒伏が発生した。登熟は緩慢であったが、8月中旬の著しい高温により登熟が進み、成熟期は平年の4～6日遅れの8月12日であった。倒伏のため子実の充実不足が懸念されるが、生育量は旺盛だったことから子実重は平年より多いと予想される。

以上のことから目下の作況は「やや良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.12	8.8	4	8.12	8.6	6

注) 「ハルユタカ」の平年値は前7か年中、平成12年(最凶)、平成18年(最豊)を除く5か年平均。「春よ恋」の平年値は前6か年中、平成14年(最凶)、平成18年(最豊)を除く4か年の平均。

3) とうもろこし 作 況：平年並

事 由：7月上中旬が平年より低温に推移したことから、開花期および抽糸期ともに平年より4日遅れた。8月中旬が平年より高温に推移したことから、生育の遅れは回復し、草丈は平年よりやや高く、葉数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	8.7	8.3	4
抽糸期 (月.日)	8.6	8.2	4
草丈(cm) (8月20日)	306.6	293.0	13.6
葉数(枚) (8月20日)	14.7	15.0	△0.3

注) 平年値は前3か年の平均(供試品種が変更されたため)。

#### 4) 大豆

作 況：平年並

事 由：7月下旬の平均気温はやや低かったが、8月上旬以降は高温に推移したため、主茎長、主茎節数及び分枝数は平年並～やや上回った。7月中～下旬の開花始前後が低温であったが、着莢数に及ぼす低温の影響には品種間差が見られ、耐冷性強の「ユキホマレ」の着莢数は平年よりやや多く、耐冷性やや強の「トヨコマチ」はやや少なかった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm) (8月20日)	64.9	59.0	5.9	57.2	58.2	△ 1.0
主茎節数 (8月20日)	11.9	11.1	0.8	10.7	10.9	△ 0.2
分枝数(本/株) (8月20日)	6.5	5.7	0.8	6.4	5.0	1.4
着莢数(個/株) (8月20日)	59.8	68.0	△ 8.2	69.2	62.4	6.8

注) 平年値は、前7か年中平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

#### 5) 小豆

作 況：やや良

事 由：7月下旬の平均気温はやや低かったが、8月上旬以降は高温に推移したため、主茎節数は概ね平年並であり、主茎長及び分枝数は平年を上回った。開花前の低温により、中生の「エリモシヨウズ」、早生の「サホロシヨウズ」共に開花始は5日遅れた。その後は高温に推移したが「エリモシヨウズ」の着莢は遅れ気味で、着莢数は平年よりやや少ない。「サホロシヨウズ」の着莢は順調であり、平年を3割上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	エリモシヨウズ			サホロシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.30	7.25	5	7.28	7.23	5
主茎長(cm) (8月20日)	64.2	56.5	7.7	66.6	46.0	20.6
主茎節数 (8月20日)	12.4	13.0	△ 0.6	12.0	11.2	0.8
分枝数(本/株) (8月20日)	6.6	4.3	2.3	7.1	4.3	2.8
着莢数(個/株) (8月20日)	28.5	32.1	△ 3.6	54.6	42.0	12.6

注) 平年値は、前8か年中平成11年(最凶)、18年(最豊)および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

## 6) 菜豆

作況：平年並

事由：平均気温が7月下旬はやや低温に、8月上旬以降は高温に推移したが、生育に及ぼす影響は小さく、草丈、主茎節数、分枝数及び着莢数は、ほぼ平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	41.3	39.2	2.1	45.5	41.4	4.1
主茎節数 (8月20日)	5.2	5.4	△ 0.2	5.4	5.8	△ 0.4
分枝数(本/株) (8月20日)	5.4	4.6	0.8	5.7	4.2	1.5
着莢数(個/株) (8月20日)	23.3	23.2	0.1	22.1	21.0	1.1

注) 平年値は、前7か年中平成12年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

## 7) ばれいしょ

作況：平年並

事由：7月下旬から8月上旬にかけて、短時間の集中的な降雨に何度か見舞われ、圃場は過湿状態であった。茎長は、「男爵薯」が平年より8cm長く、「コナフブキ」は8cm短かった。「男爵薯」は例年より茎葉の黄変が進んでいる。上いも重は、「男爵薯」が平年比95%、「コナフブキ」は平年比107%である。でん粉価は平年並かやや下回った。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm) (8月20日)	45	37	8	68	76	△ 8
茎数(本/株) (8月20日)	3.0	3.2	△ 0.2	3.2	2.7	0.5
上いも重(kg/10a) (8月20日)	3827	4037	△ 210	3769	3493	276
でん粉価(%) (8月20日)	16.4	16.5	△ 0.1	21.0	21.6	△ 0.6

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15年(最凶)、17年(最豊)を、「コナフブキ」は平成15(最凶)、18年(最豊)を除く5か年の平均。

## 8) てんさい

## 作 況：やや良

事 由：移植栽培は、前節に続いて地上部の生育が旺盛であり、高温と十分な降雨で地下部の肥大も急速に回復し、平年を上回っている。直播栽培も生育が旺盛となる時期に高温と十分な降雨があったため、地上部・地下部ともに急速に生育が回復し、平年を上回っている。

以上のことから目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	69.9	63.1	6.8	64.9	58.9	6.0	68.4	62.9	5.5
生葉数(枚) (8月20日)	26.6	27.7	△ 1.1	26.4	26.6	△ 0.2	25.7	26.0	△ 0.3
茎葉重(g/個体) (8月20日)	1045	919	126	965	920	45	1042	844	198
根重(g/個体) (8月20日)	593	588	5	671	615	56	485	449	36
根周(cm) (8月20日)	28.6	28.3	0.3	31.6	30.2	1.4	27.4	25.5	1.9

注) 平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成12年(最凶)および17年(最豊)、移植「アーベント」は平成12年(最凶)および16年(最豊)、直播「モノホマレ」は平成14年(最凶)および16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

## 9) 牧 草

## 作 況：不良

事 由：8月8日に収穫を行った2番草は、草丈および節間伸長程度ともに平年より劣り、乾物収量は平年の70%であった。これは平年に比べ7月上中旬が低温少雨に推移したこと等から、2番草の生育が停滞したためと考えられる。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ノサップ		
	本年	平年	比較
節間伸長程度 2番草	2.0	3.5	△ 1.5
刈取日(月.日) 2番草	8.8	8.8	0
病害罹病程度 2番草	4.0	3.3	0.7
草丈(cm) 2番草	44	65	△ 21
生草収量(kg/10a) 2番草	725	1054	△ 329
乾物率(%) 2番草	22.2	22.5	△ 0.3
乾物収量(kg/10a) 2番草	162	233	△ 71

注) 平年値は前5か年の平均(耕種概要・調査項目が大幅に変更されたため)。



## 10) たまねぎ

作 況：良（参考）

事 由：7月下旬から8月上旬にかけては、気温が平年並に経過し降水量もあったことから茎葉の生育および球肥大は概ね順調であった。倒伏期は「改良オホーツク1号」では平年より2日遅い8月5日、「スーパー北もみじ」では平年より5日遅い8月18日であった。「改良オホーツク1号」は8月16日に根切りを実施した。生葉数が平年より1～2枚多く、根切り処理時まで地上部生育が極めて旺盛であった「改良オホーツク1号」の球生重は平年より約53%多く、「スーパー北もみじ」の球生重も約12%多い。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
倒伏期 (月.日)	8.5	8.3	2	8.18	8.13	5
球生重(g) (8月20日)	340.7	222.9	117.8	276.9	247.7	29.2

注) 平成15年に圃場を変更したため、平年値は平成15年から平成18年までの4カ年の平均。

付表1 各作物の耕種概要

作物名	一区面積 (㎡)	反覆	前作物	畦幅 cm	株間 cm	一株 本数	播種粒数 粒/㎡	播種量 kg/10a	株数 株/10a
1. 秋まき小麦	6.0	4	緑肥シロカラシ	30.0	条播	-	340(255)	-	-
2. 春まき小麦	6.0	4	緑肥シロカラシ	30.0	条播	-	340	-	-
3. とうもろこし	11.2	3	緑肥えん麦	75.0	17.8	1	-	-	7,491
4. 大豆	9.6	3	緑肥えん麦	60.0	20.0	2	-	-	8,333
5. 小豆	9.6	3	緑肥えん麦	60.0	20.0	2	-	-	8,333
6. 菜豆	9.6	3	緑肥えん麦	60.0	20.0	2	-	-	8,333
7. ばれいしょ	37.8	3	とうもろこし	75.0	30.0	1	-	-	4,444
8. てん菜	100	3	ばれいしょ	60.0	23.8	1	-	-	7,003
9. チモシー	2.7	4	緑肥えん麦	30.0	条播	-	-	2.0	-
10. たまねぎ	10.0	2	たまねぎ	30.0	10.5	1	-	-	31,750

注) 秋まき小麦の播種粒数欄の ( ) は「ホクシン」の播種粒数を示す。

付表2 各作物の耕種概要

作物名	施肥量 (kg/10a)						備考
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	堆肥	その他	
1. 秋まき小麦	6+3	20.0	9.6	4.0			
2. 春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0			
3. とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0	3,000	炭カル:100	
4. 大豆	1.8	15.0	7.8	3.0			
5. 小豆	4.0	20.0	11.2	4.0			
6. 菜豆	4.0	16.0	9.3	3.3			
7. ばれいしょ	8.0	20.0	14.0	5.0			
8. てん菜	15.0	21.3	13.8	5.0			
9. チモシー	15.0	15.0	15.0	2.3			2年目草地
10. たまねぎ	15.0	31.0	15.0	2.8	2,000		